

雌阿寒岳

火山活動は概ね静穏に経過しました。中マチネシリ火口付近の地震回数は増減を繰り返しながら、2014年以前と比べるとやや多い状態で経過しました。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2019年7月～2020年6月の発表履歴

変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------	----------------------------

○2019年7月～2020年6月の活動概況

・噴煙などの表面現象の状況（図1-①～⑥、図2～8、図12-①）

監視カメラによる観測では、ポンマチネシリ96-1火口の噴煙及びその他の火口の噴気の高さは火口縁上200m以下で、噴煙及び噴気活動は低調に経過しました。

2019年7月29日に国土交通省北海道開発局の協力により上空からの観測を、2019年9月30日から10月3日に現地調査を、2020年2月5日に第一管区海上保安本部の協力により上空からの観測を実施しました。過去の現地調査及び上空からの観測と比較して、ポンマチネシリ96-1火口やその他の火口の噴気の状態や地熱域の状況に特段の変化はありませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-⑦～⑧、図9～11）

火山性地震は、ポンマチネシリ火口付近の標高1km～海面下1km及び中マチネシリ火口付近の標高0km～海面下1kmで発生しました。2019年7月下旬から8月上旬にかけて中マチネシリ火口付近の地震が増加しました。2020年5月5日、15～16日にポンマチネシリ赤沼火口付近を震源とする地震が一時的に増加しました。それ以外の期間はポンマチネシリ火口付近及び中マチネシリ火口付近とも、少なく経過しました。

中マチネシリ火口付近の地震回数は増減を繰り返しながら、2014年以前と比べるとやや多い状態で経過しています。

火山性微動は観測されませんでした。

・ポンマチネシリ96-1火口周辺の全磁力の状況（図12-②）

96-1火口南側で実施している全磁力連続観測によると、全磁力は2018年8月頃から概ね横ばいで推移していましたが、2020年4月から5月頃にかけてわずかな減少がみられました。

・地殻変動の状況（図13～14）

GNSS連続観測では、2016年10月下旬以降、雌阿寒岳の北東側に膨張源が推定される地殻変動が観測されていましたが、2019年夏頃から停滞していると考えられます。

2019年9月30日から10月3日にかけて実施した山頂付近のGNSS繰り返し観測では、ポンマチネシリ赤沼火口付近の基線で、2018年からの伸びの変化が引き続きみられており、火口浅部の膨張による変動の可能性がります。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図10mメッシュ（火山標高）』及び『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情復、第958号）。

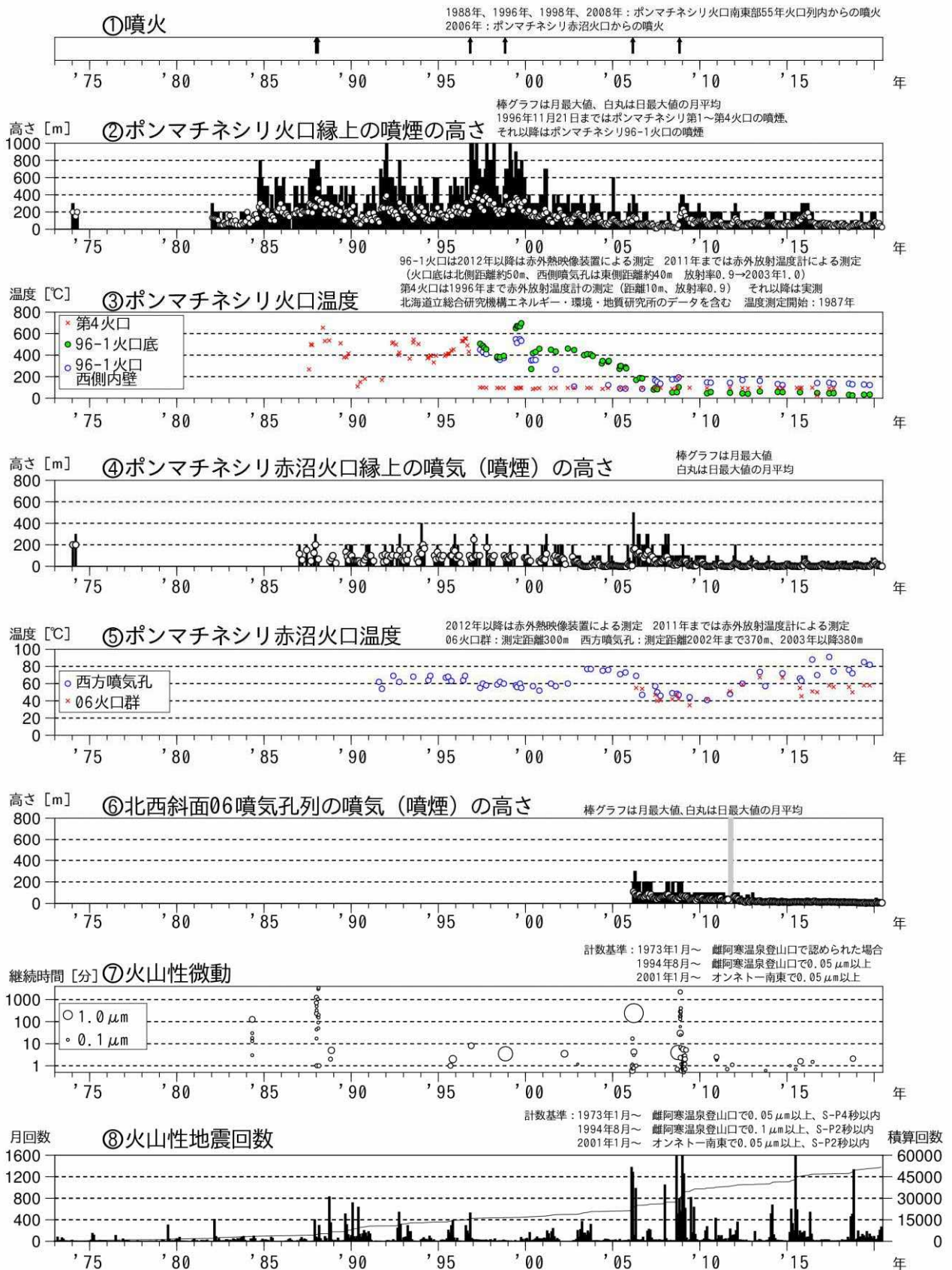


図1 雌阿寒岳 火山活動経過図（1973年1月～2020年6月）

⑥の灰色の期間は機器障害のため欠測しています。

* 1：2012年から分解能が高い測定機器に変更したため、同じ対象を観測した場合でも
これまでの機器より高め温度が観測される傾向があります。



図2 雌阿寒岳 南東側から見た山体の状況（2020年6月21日）

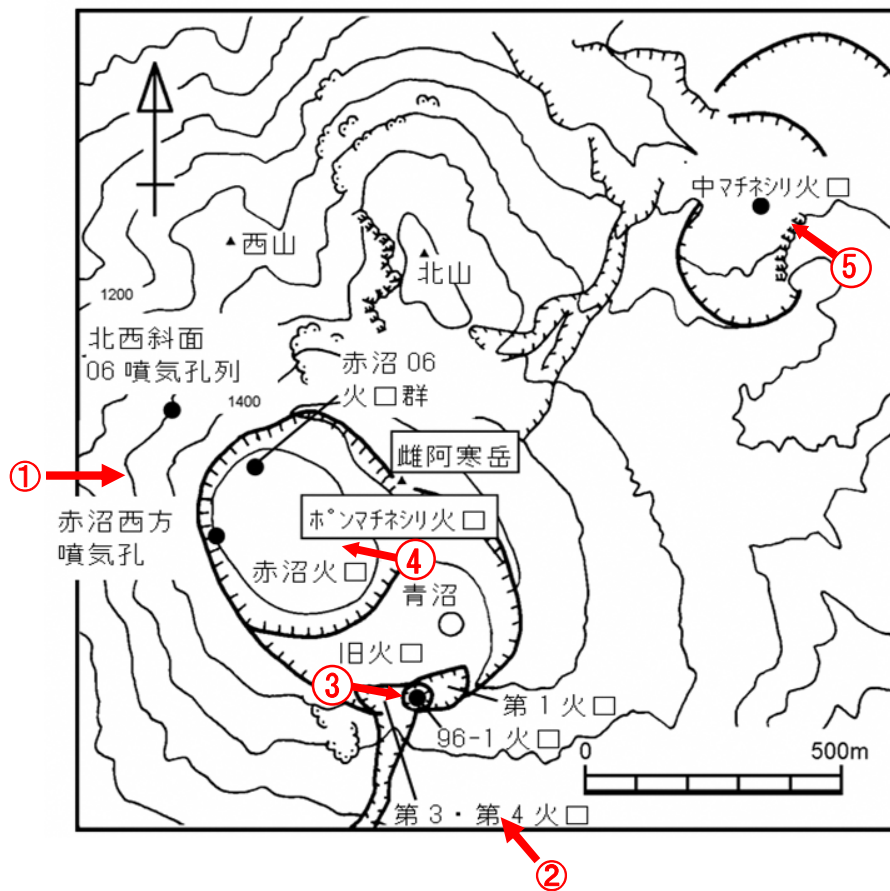


図3 雌阿寒岳 火口周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）



図4 雌阿寒岳 ポンマチネシリ火口及び北西斜面の状況
西側上空（図3の①）から撮影

- ・ポンマチネシリ96-1火口、ポンマチネシリ赤沼火口、北西斜面06噴気孔列の噴煙・噴気の状況に異常は認められませんでした。

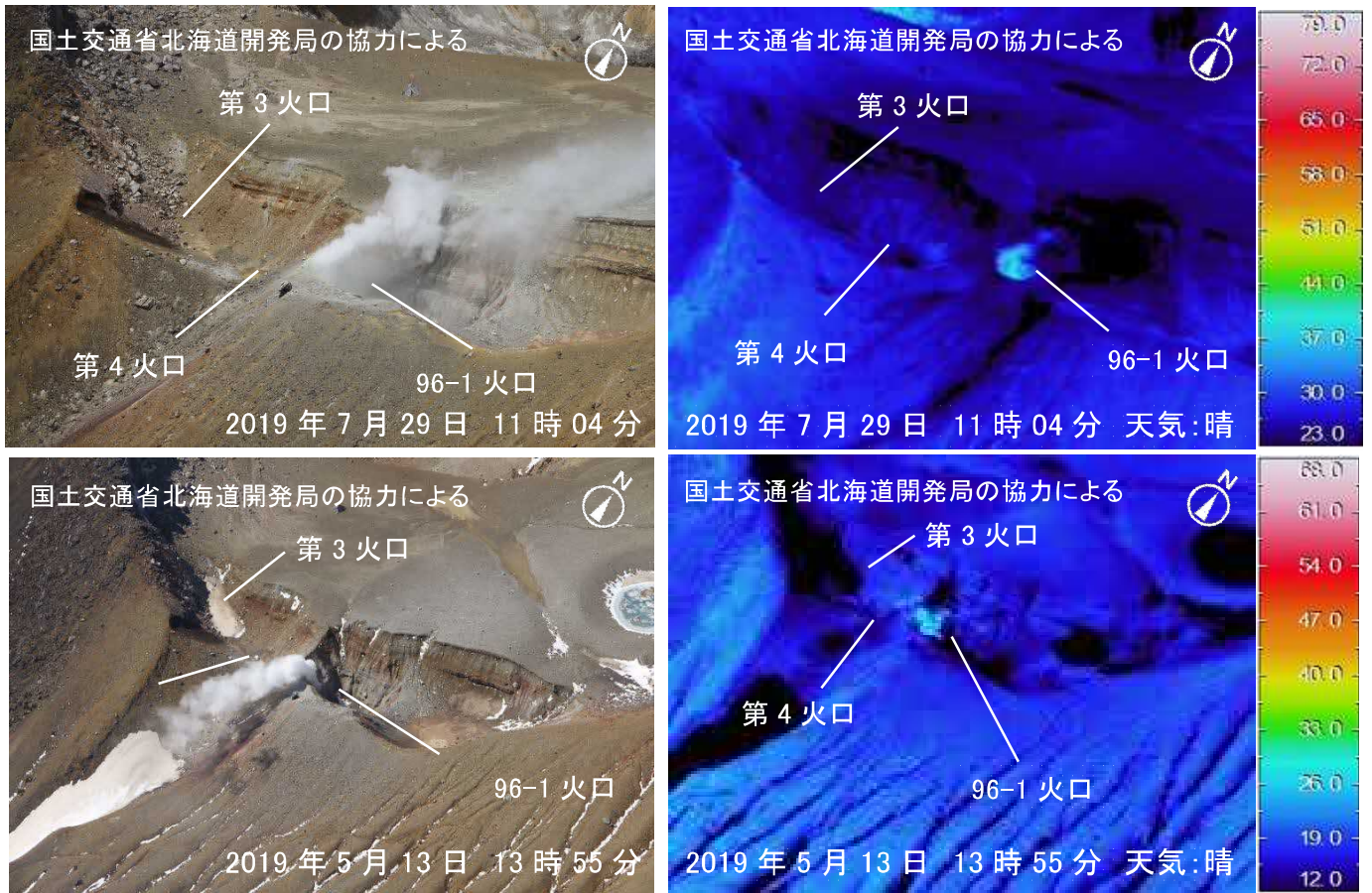


図5 雌阿寒岳 赤外熱映像装置によるポンマチネシリ96-1火口及び第4火口の地表面温度分布
上、下：南東側上空（図3の①）から撮影
・噴気の状態や地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

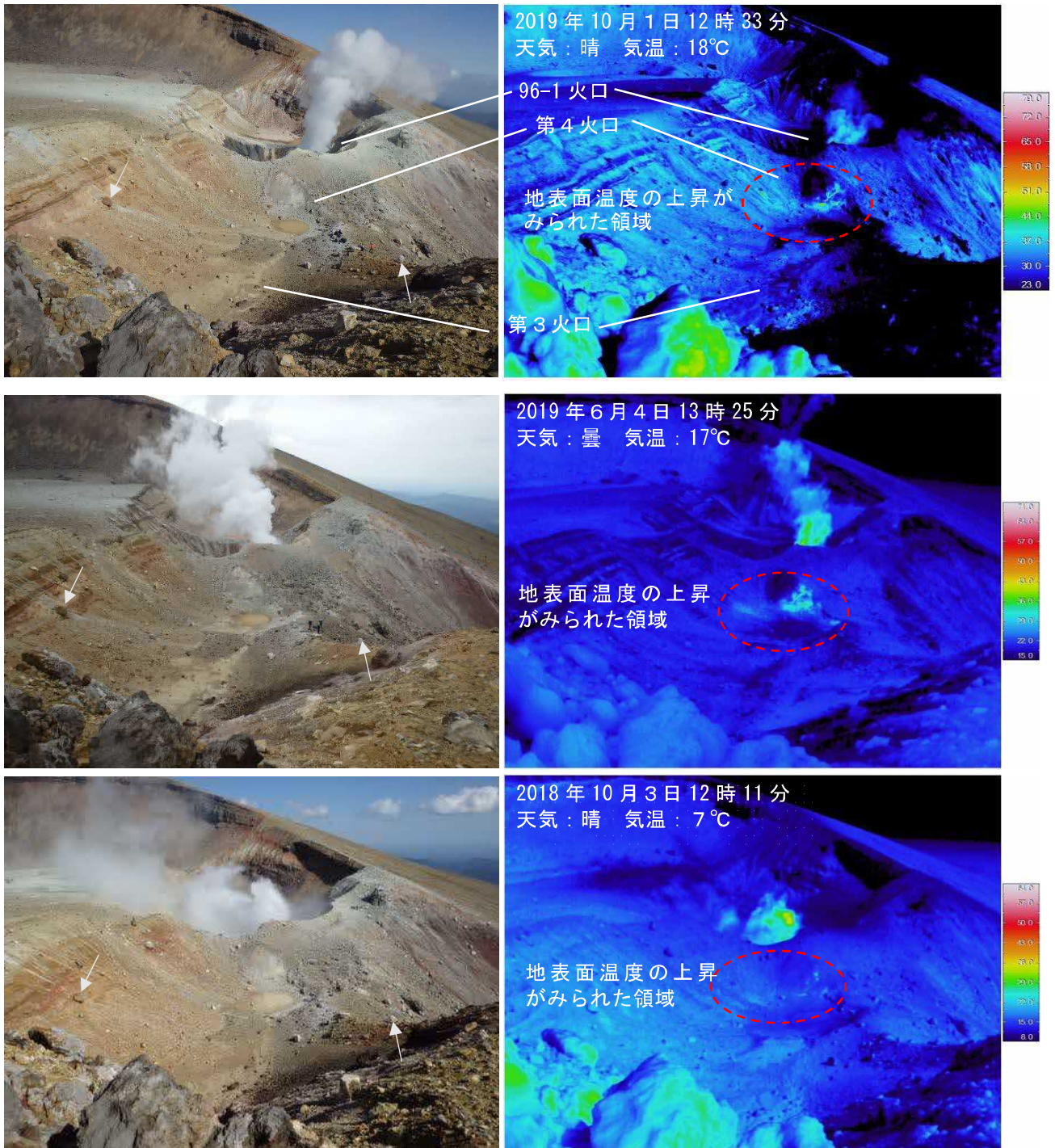


図6 雌阿寒岳 赤外熱映像装置によるポンマチネシリ第3火口及び第4火口の地表面温度分布
西側（図3の②）から撮影
白矢印は同じ岩を示す

- ・ 噴気の状態や地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

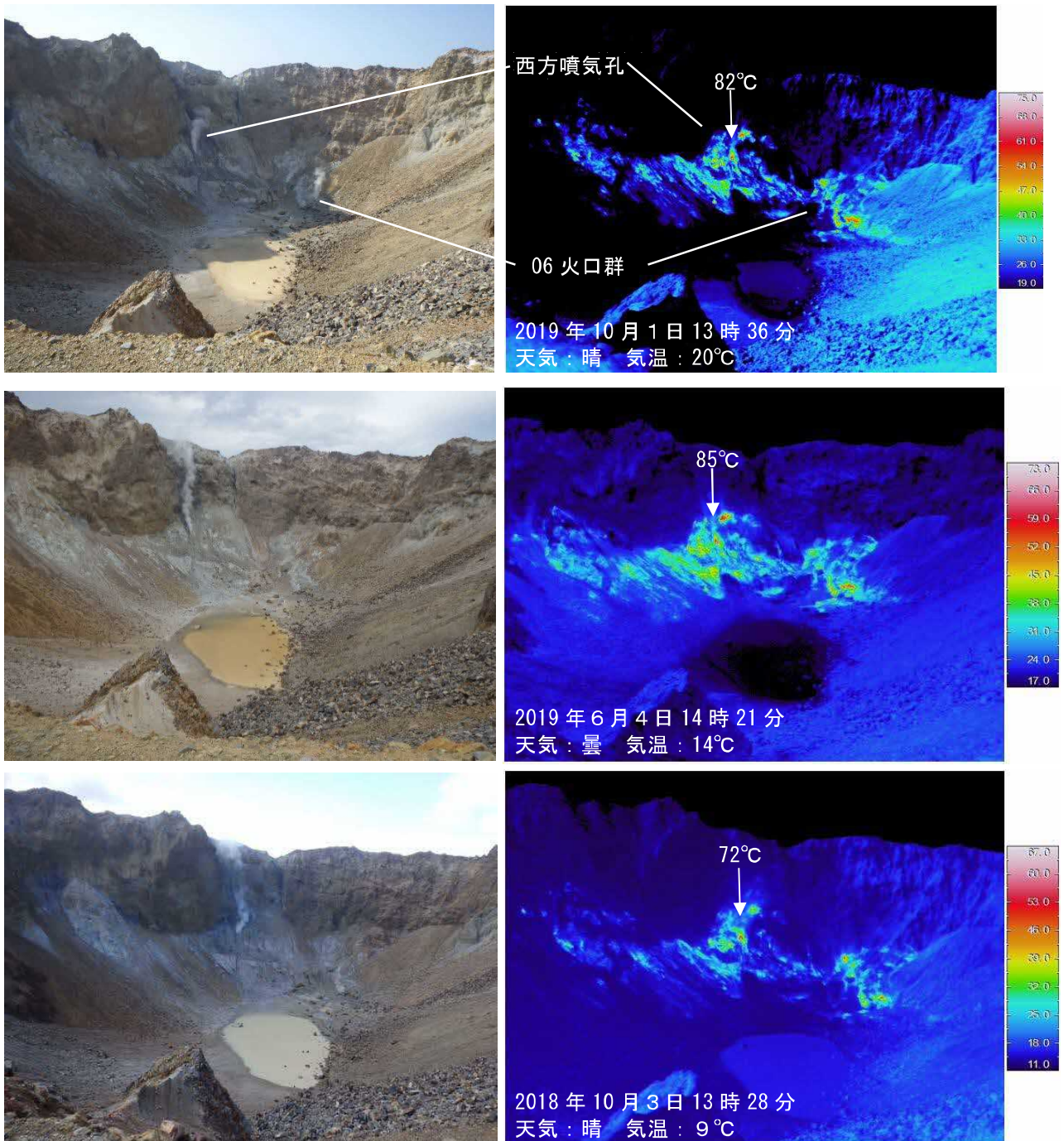


図7 雌阿寒岳 赤外熱映像装置による赤沼火口の地表面温度分布
東側（図3の③）から撮影

- ・ 噴気の状態や地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。
- ・ 西方噴気孔の最高温度は、2015年以降、約70°C～90°Cで推移しています。

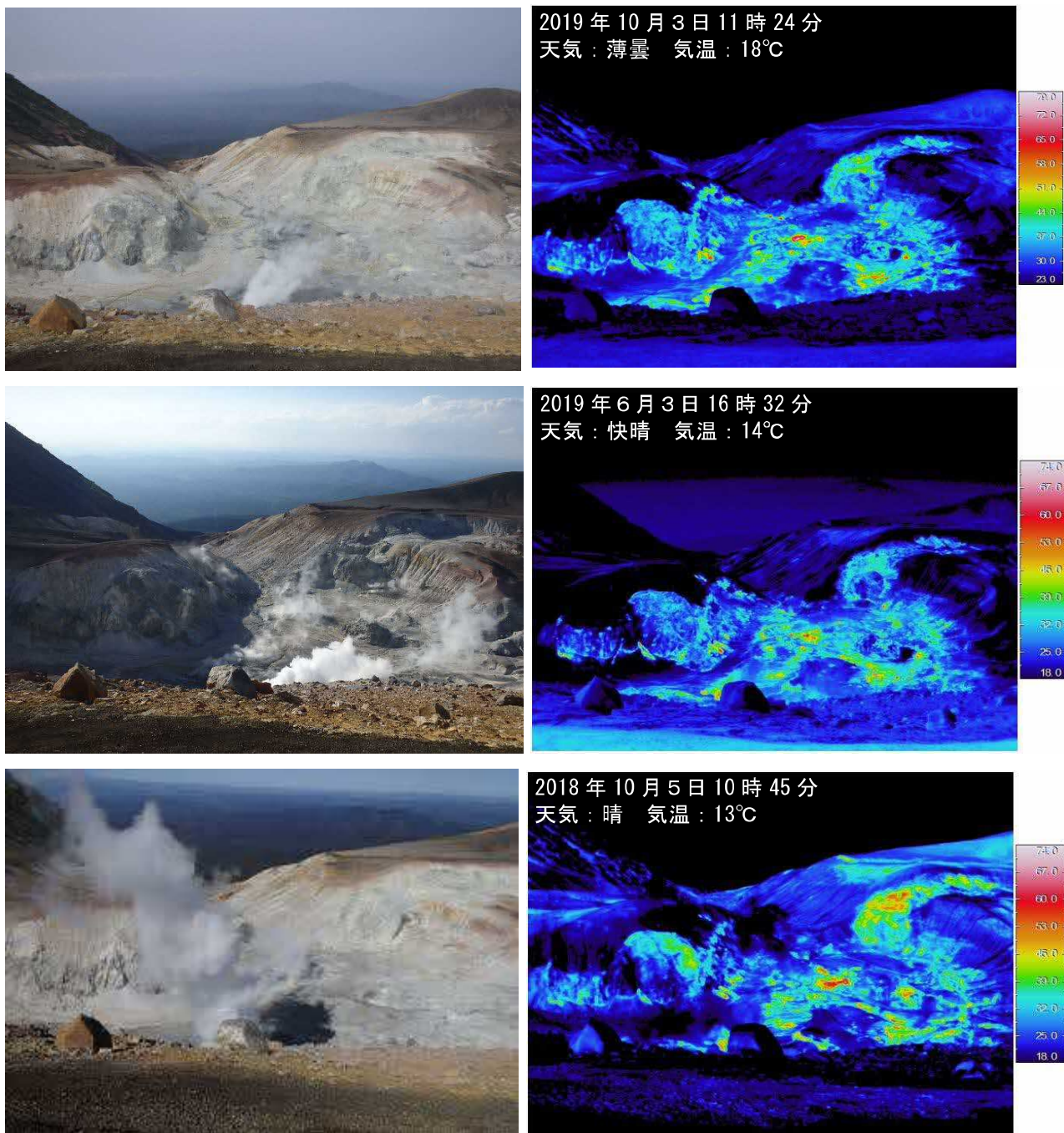


図8 雌阿寒岳 赤外熱映像装置による中マチネシリ火口の地表面温度分布
南東側（図3の④）から撮影

- ・ 中マチネシリ火口内の地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。
（上図の地表面温度分布には、それぞれ噴気の影響が含まれています。）

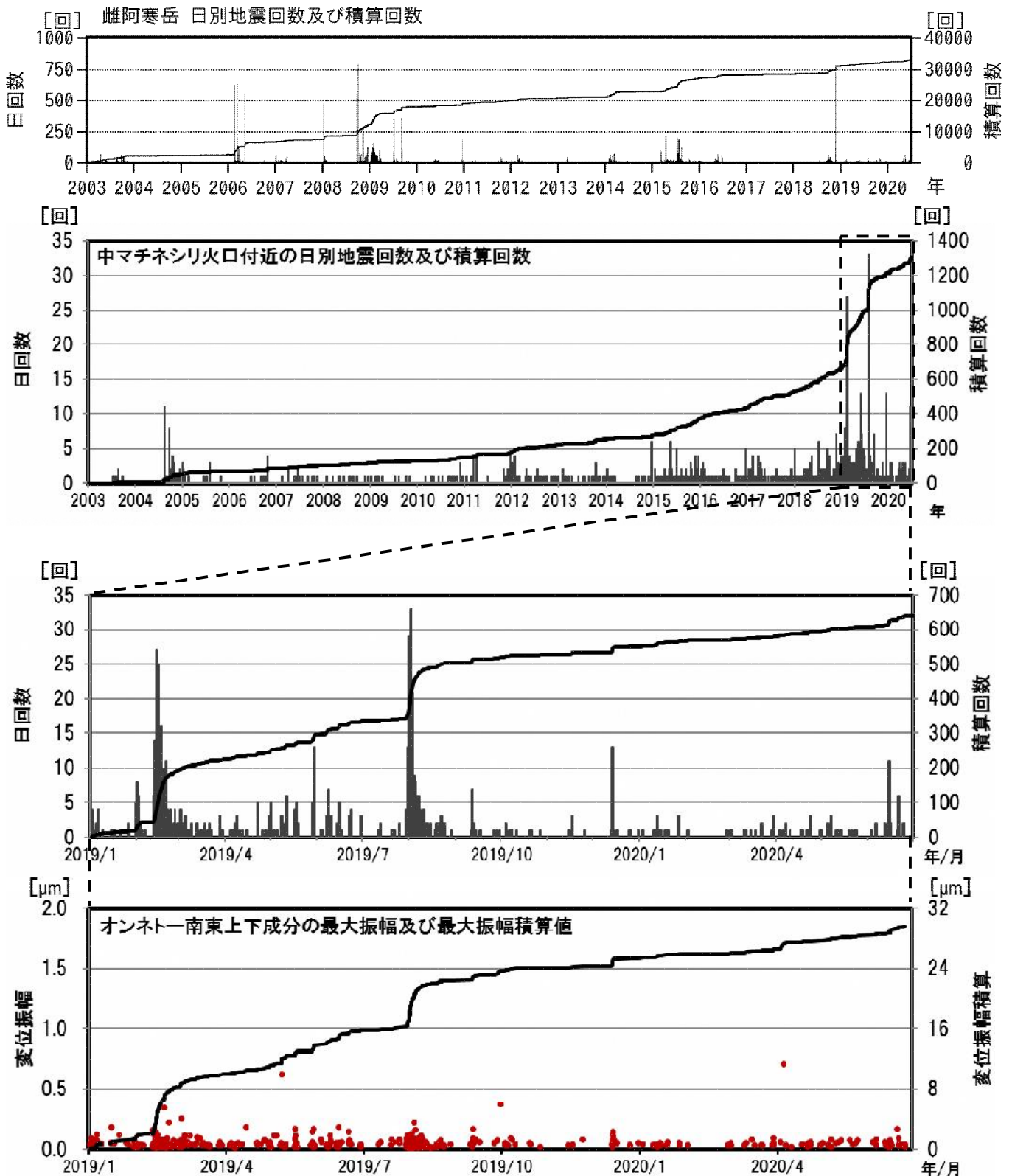


図9 雌阿寒岳 中マチネシリ火口付近の地震の日回数及び最大振幅（2003年1月～2019年8月）

中マチネシリ火口付近の地震とは、図10黒点線内で発生したと考えられる地震を指します。

- ・中マチネシリ火口の標高0km付近を震源とする規模の小さい地震が2019年7月下旬から8月上旬にかけて増加しました。地震の回数や規模は、2019年2月に中マチネシリ火口で地震が増加した時と同程度でした。
- ・中マチネシリ火口付近の地震回数は増減を繰り返しながら、2014年以前と比べるとやや多い状態で経過しています。

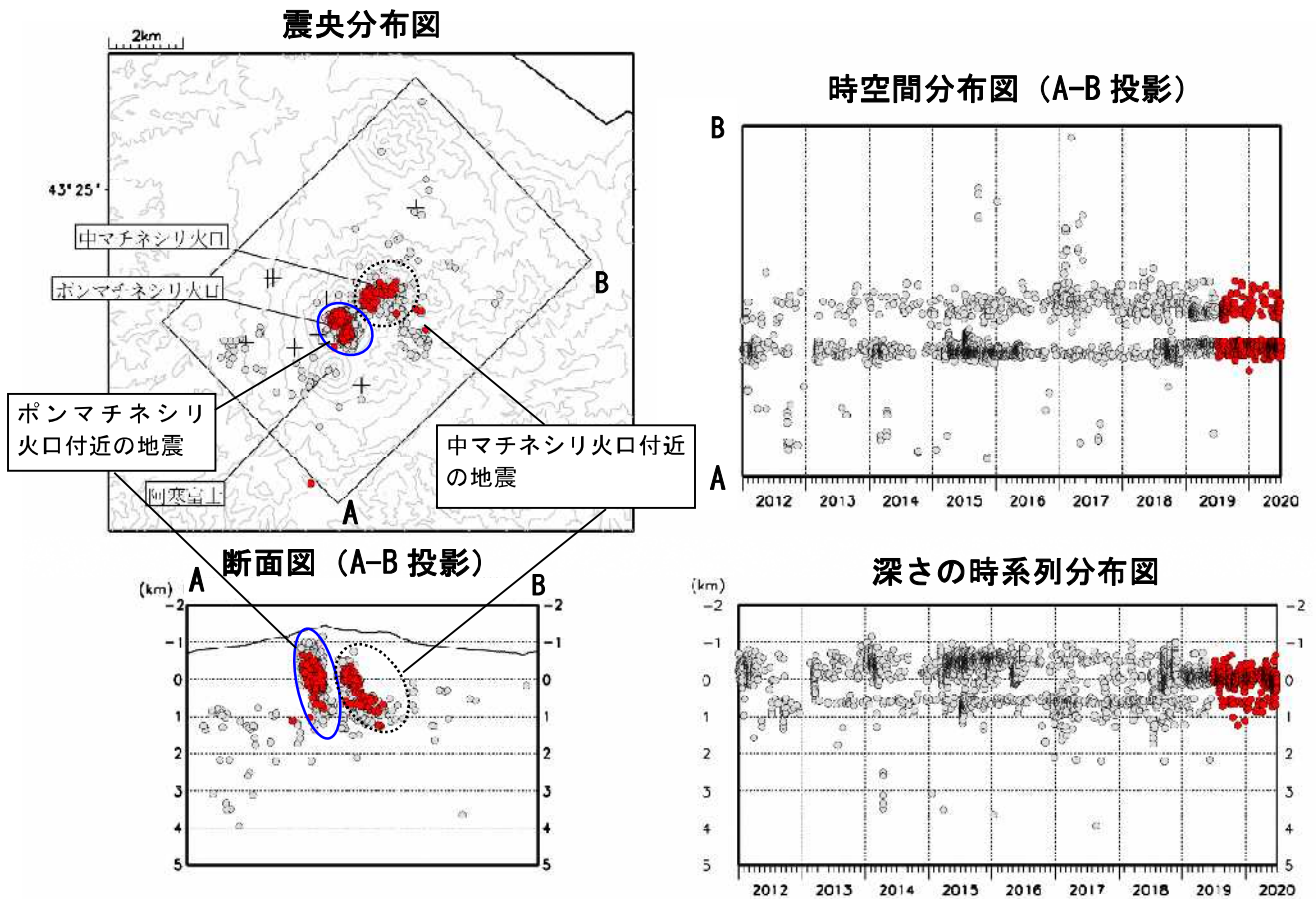


図10 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布（2012年10月～2020年6月）

○印：2004年10月～2019年6月の震源
●印：2019年7月～2020年6月の震源
+印：地震観測点

- ・地震は、ポンマチネシリ火口付近の標高1 km～海面下1 km（青線内）及び中マチネシリ火口付近の標高0 km～海面下1 km（黒点線内）で発生しました。
- ・2020年5月5日、5月15～16日にポンマチネシリ火口付近を震源とする地震が一時的に増加しました。